

プロジェクト課題No.4

水稲乾田直播栽培技術の定着による 大規模土地利用型経営体の基盤強化

活動期間: 令和6年度～令和7年度

対象者: (有)ITO、(株)高橋グリーン、(農)アグリ今泉、(農)若木の里、みどりあーと山崎(株)

チーム員: 八木沼湧太、大槻恵太、大越那津季

課題の背景・ねらい

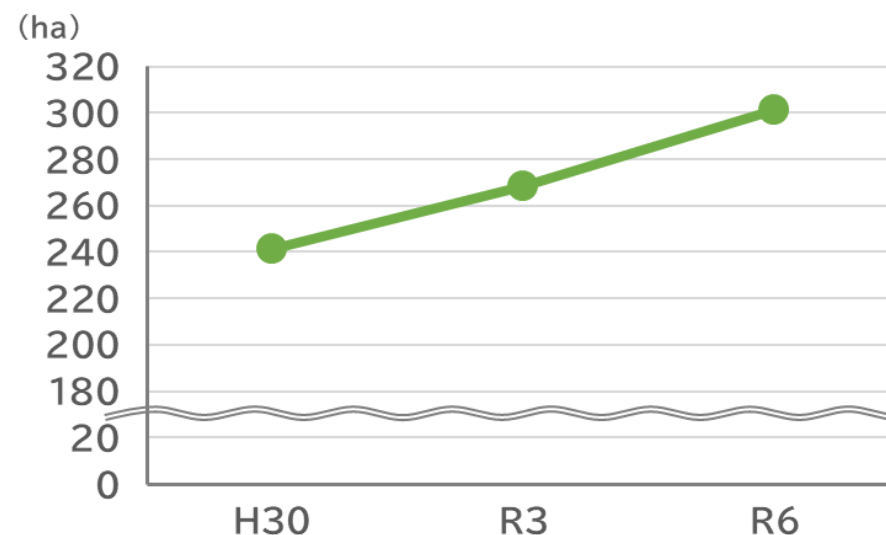
- ・農地集積により法人の規模が拡大
- ・限られた人員、時間、資材の中で経営規模拡大に限界感
⇒水稲栽培の省力化、効率化が喫緊の課題
水稲乾田直播栽培の導入による解決に期待

育苗施設が足りない

田植えや育苗管理の時間が足りない

◎乾田直播栽培の導入・拡大への課題

- ・栽培技術の習熟、収量の安定化
- ・作業省力化効果や体系の提示
- ・スマート農業活用による更なる効率化



課題対象法人の経営面積年次推移

課題の背景・ねらい

○対象者について

- ①(有)ITO(R6乾直面積 約23ha/水稻経営面積 約50ha)
 - ・乾田直播栽培導入6年目
 - ・スマート農業機器を多く導入、可変施肥など実施
- ②(株)高橋グリーン(6ha/約9ha)
 - ・導入6年目、飼料用米で取組み
- ③(農)アグリ今泉(4ha/約7ha)
 - ・導入3年目、水稻面積増加分は乾田直播栽培で栽培意向
- ④(農)若木の里(10.5ha/約42ha)
 - ・導入3年目、育苗施設不足、今年10haまで拡大
- ⑤みどりあーと山崎(株)(10ha/約44ha)
 - ・導入2年目、取組みの意志高く今年10haまで拡大



管内図とほ場位置

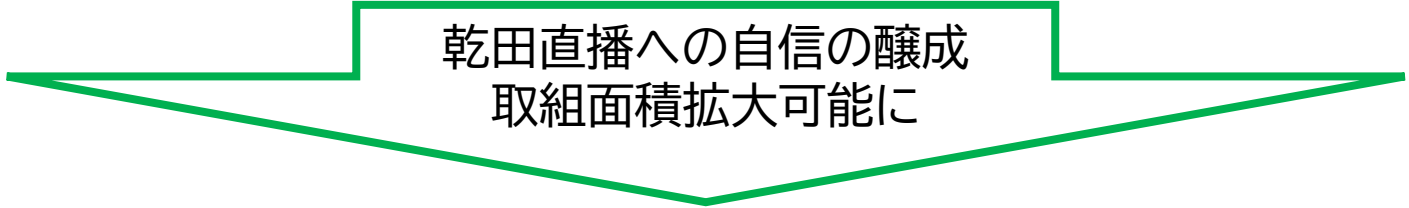
地図出典: 国土地理院

<https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>

課題の背景・ねらい

【定性的目標】

- 移植栽培と同等の収量を確保できる技術の習得
- 乾田直播栽培の導入により春作業の労働負荷の平準化
- アグリテックを活用し、更なる省力化や生育ムラの解消による増収等を達成



乾田直播への自信の醸成
取組面積拡大可能に

【定量的目標】

- 対象5法人の乾田直播栽培取組面積

R5(基準): 14ha → R6: 25ha → R7: 35ha

《実績》R6: 33ha → (R7: 約53ha)

活動内容

○基本技術習得支援

- ・栽培管理の助言、生育調査ほ設置、巡回指導

○乾直導入による省力化確認

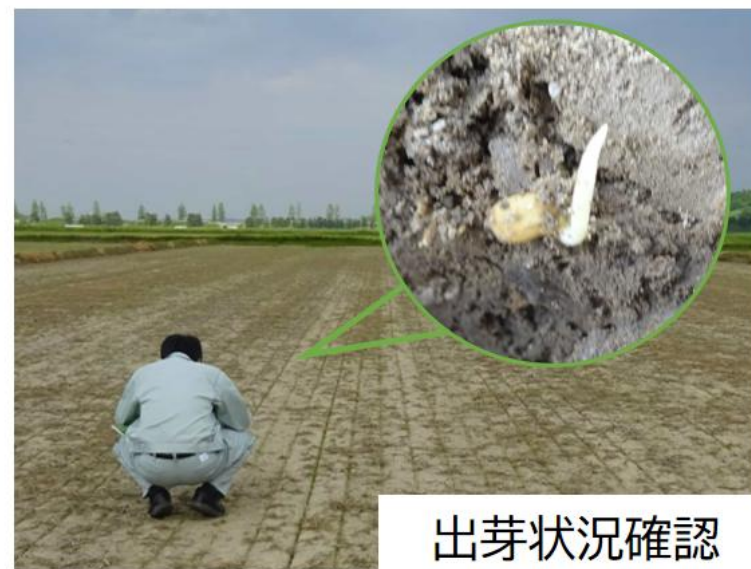
- ・作業体系と時間聞き取り、乾直への所感調査

○アグリテックの効率的な活用支援

- ・アグリテック活用状況聞き取り、課題解決支援



播種作業



出芽状況確認

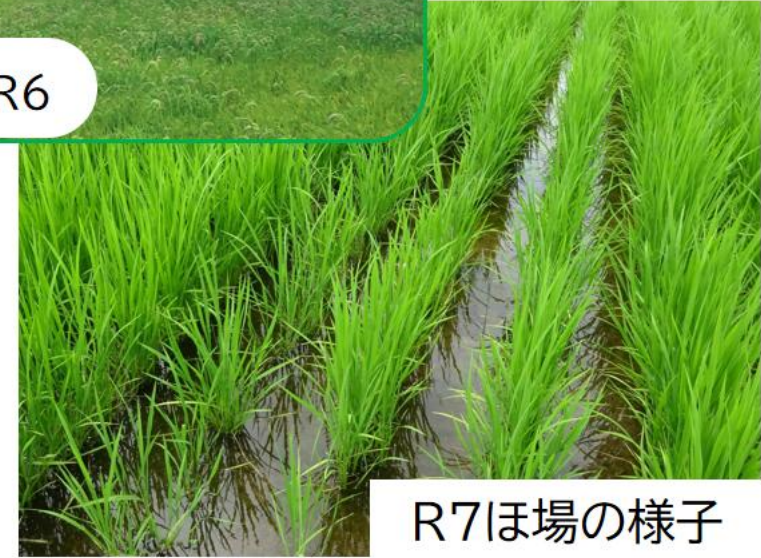
これまでの活動成果

○基本技術習得支援

- ・入水期まで除草剤散布のタイミングや出芽状況について重点的に指導
- ・出芽ムラが大きいほ場に一時通水を助言
- ・生育調査を行い、栽培管理について助言
- ・現地検討会と先進地視察を実施



- ・雑草発生が最小限に
- ・初期生育、出芽揃いの向上
- ・検討会では、黒川地域の生産者も多数集まり乾直のポイントを確認



これまでの活動成果

○乾田直播栽培導入による省力化確認

- ・各法人へ聞き取りを実施、作業体系と合わせて「事例集」として整理予定

○アグリテックの効果的な活用支援

- ・ITOでザルビオの活用支援
- ・アグリテック活用状況聞き取り、提案



- ・可変施肥の実施
若手従業員が積極的に活用



可変施肥マップ
(施肥日4/15)



植生マップ
(8/13時点)

今後の対応(予定)

○基本技術習得支援

- ・生育調査ほにおける収量調査
- ・適期刈取りについて情報提供
- ・総合検討会の開催

○乾田直播栽培導入による省力化確認

- ・黒川地域の乾直事例をまとめた「事例集」作成

○アグリテックの効率的な活用支援

- ・アグリテックを用いた課題解決の提案